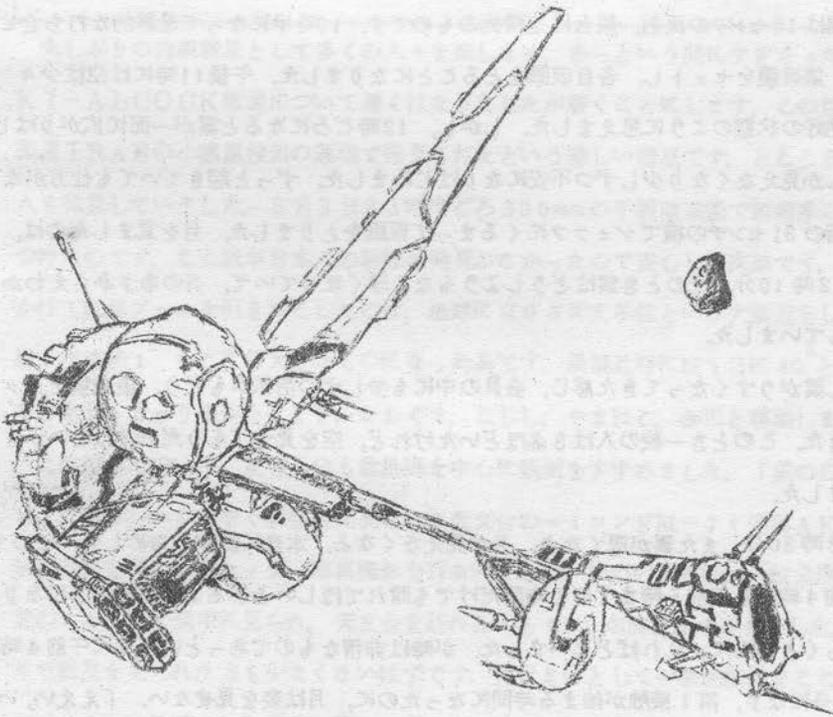


星舟

NO. 108

Jun.-1983



from Star-Sp. Library (by Studio Nue)
(SF Magazine, Feb)

木星食観測の顛末

くるみ

去る4月30日の早朝、今年のアストロノミカルなメインとも言える木星食があるはずでした。会員の方々も、それぞれ観測をなさったと思いますが残念ながらあの天候でダメでした。これから天文台における観測とその顛末について記すことにします。

私は今年の4月に天文台に入ったばかりですが初の観測がこのようすばらしい現象を対象とすることに、たいへん喜びました。本番の前からいろいろトリハースルを行ったのですがその間、あまり天候もかんばしくなく少々本番が心配になったところもありました。が、前日にかなり寒冷前線も通過し、夜半には晴れ間も出るということを知りほっとしました。雨のあとで透明度がよいというのは本当に良い条件であると思いました。

さて、29日の晩、天文台に集まったのは総勢20数名、この人員をふりわけて、写真撮影、観望、記録等にまわり、成果を得ようというものです。私は一般（もし来ればの話だが）相手の観望を担当しました。望遠鏡は16センチの反射、架台は旭精光のもので、10時半になって最終的な打ち合わせと確認、その後、望遠鏡をセットし、各自仮眠をとることになりました。午後11時には空は少々雲がある程度で絶好の状態のように思えました。しかし、12時ごろになると雲が一面に広がりはじめ月はぼろっとしか見えなくなり少しずつ不安になりはじめました。ずっと起きていても仕方がないので、私は二階の31センチの横でシェラフにくるまって仮眠をとりました。目を覚ましたのは、4月30日の午前2時10分、そのとき雲はどうしようもなく厚くなっていて、月のあかかさえわからないほどになっていました。

午前3時、少し雲がうすくなってきた感じ、会員の中にも少しずつ活気がもどり、望遠鏡をセットする人も出てきた。このとき一般の人は3名ほどいたけれど、空を見て「もうだめではといか」などと言っていました。

しかし、午前3時30分、また雲が厚くなり、月が見えなくなる。本当に雲がうらめしい。せめて木星食のある午前4時から午前5時までの1時間だけでも晴れてほしいと祈るような気持ちになり時間ももっとゆっくり進んでくれればと思いました。が時は非情なものであつという間に午前4時になり、4時19分になり、第1接触が始まる時間になったのに、月は姿を見せない。「ええい、いまいましい雲だ！」とらみごとをいったところでどうしようもなく時間はすぎていきます。

けれど、午前4時37分、皆の祈りが通じたのか月が雲の中から姿を見せました。会員はさっと持ち場にちらばり接眼レンズをのぞきました。が、それも束の間、あっという間に月は雲にかくれてしまいました。まさに「めぐり遭ひ見しやそれともわかぬ間に雲がくれにし夜半の月かな」という感じてした。その後、月は私たちの前に姿を現さず、結局午前4時43分、木星食はおわってしまったのです。がっかりした会員はそのままフテ寝をし、朝になると三々五々ひきあげていきました。私は屋近くまでぐっすり寝て起きると、前日からの出来事を回想してみました。するとまた残念さがこみ上げてきてまたフテ寝してしまったのです。

結局、木星食観測は阿蘇でもできず天文台でもできず、わずかに福岡県北部で見られたのにとどまったそうです。観測をしたみなさん、本当にご苦労さまでした。

最後に木星食観測の記事を私のような文才のない者が書き、非常に読み苦しくまた興味をひかない文章となったことをお詫びします。

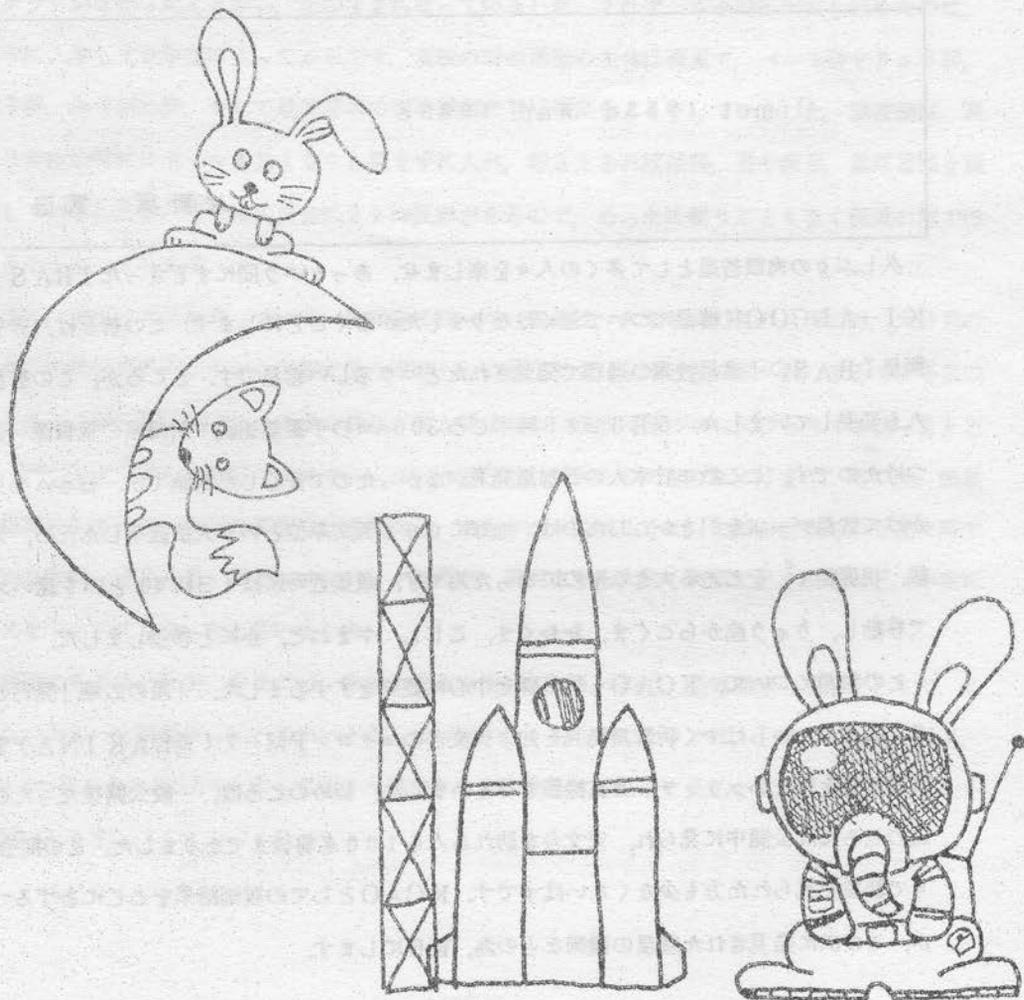
Comet 1983d and 1983e

片野坂 重浩

久しぶりの肉眼彗星として多くの人々を楽しませ、あっという間にすぎさった IRAS-ARA K I-A LCOCK 彗星について遅くはなりましたが書くことにします。この彗星は、赤外線人工衛星 IRAS の小惑星搜索の過程で発見されたという珍しい彗星です。ところが、この彗星は日本人も発見していました。5月3日23時半ごろ300mmの手製望遠鏡で新潟県の荒貴源一さんが見つけたのです。ここ数年日本人の新彗星発見がなかったので安心した次第です。日本人発見に輪をかけて彗星ブームを引きおこしたのは、地球に0.03天文単位という大接近をしたため、光度3等級、視直径1°をこえる大きなものになった為です。最接近時には1日に40°という速いスピードで移動し、りゅう座からこぐま、おおぐま、こじし、やまねこ、かにと移動しました。

この彗星について、KCAOも彗星課を中心に観測をすすめました。「星の広場」発行の"ANS"により、いちやく新彗星発見を知り天文台のマイコンFM-7(通称AKINA)を使って軌道計算を行ないスケッチ、写真撮影を行ないました。初めころは、一般公開後だったのが大接近のころには公開中に見られ、天文台を訪れる人も100名前後までなりました。この間会員の方々が彗星を見られた方も少なくないはずですが、KCAOとしての観測結果をここにあげるべきですが、この次に発見された彗星の観測などの為、後日にします。

I-A-A 彗星で勇まかえている最中の5月9日早朝またもや彗星が発見されました。今回は、日本人3人の発見でした。このスガノ・サイグサ・フジカワ彗星も4等級ぐらゐまで明るくなり、アンドロメダ大星雲をかすめ(当日曇)、いるか、わし、たて(6月13日)、さそり(6月15日)と移動しました。この彗星は、6月に入って地球に近づき淡く広がっていたようでした。実はこの彗星、熊本でも発見されていたかもしれないのです。発見前日の1983eの観測を終え明け方捜索をしようと懸眠をとった日氏、1983eの観測で疲れたのか、3hに起きるつもりが寝すごし目がさめたとき外は明るくなっていました。その日の夕方、新彗星発見を知った彼の気持ちは・・・。他人の失敗ばかり言ってはいただけません。彗星課一同、これらの彗星発見で気分をあらたにして、捜索にはげもうと思います。発見には不利である西の韻本ですが、それにしても春に開かれた彗星会議の効果はスゴイ。なんとテーマは「なぜ最近日本人による新彗星発見がないか？」(6月6日、倉敷市の本田実氏がケフェウス座 ϵ 星の近くに新星発見。)



昭和58年度

熊本県民天文台総会報告

H A R

去る5月22日、熊本県民天文台としては最初の定期総会が多数の参加者を迎え、熊本市立博物館大ホールにおいて行なわれました。

以下、総会についての報告です。

1. 開会の辞

<中川氏>

1. 台長挨拶

西岡台長ならびに、官部名誉台長より挨拶が行われました。また、この度、台長の任を降りられる事となった西岡台長に、これまでの労をねぎらっての記念品贈呈が行われました。

1. 議事

議長として、満場一致で山本重信氏が選ばれました。議事の内容は以下の通りです。

○昭和57年度業務報告

<小林寿郎氏>

○昭和57年度会計報告

<永井氏>

○昭和57年度会計監査報告

<西村氏>

○会則改正の提案

<小林昌樹氏>

熊本天文研究会から熊本県民天文台への組織変更に伴う大幅な会則改正案が提出されました。この案は、2・3の質疑応答の後に満場一致で承認されました。

○役員改選

役員改選に伴い、新台長に就任された官本氏より、挨拶 これからの天文台の在り方についての話 がありました。

○昭和58年度事業計画

<堀田氏>

○昭和58年度予算案検討

<永井氏>

以上の議事が行われました。詳しい内容については、同封のプリントを参照して下さい。

1. 閉会の辞

<中川氏>

以上、総会を終えた後、KCAO開所当時のビデオ等が上映されました。

自己紹介

佐藤博之

私は、熊本大学文学部史学科西洋史コース3回生の佐藤といいます。現在、熊大天文研究会に所属して星雲星団課の一員として頑張っています。天文台には、昨年春に入会し、学生は暇だろうということで、不肖ながら運営委員とこの星くずの編集委員をやっています。

生年月日は、昭和37年5月10日、当年にとって21歳、生まれは大分、育ちは熊本です。天文に興味を持ったのは中学校3年生の時、姉が買ってきた天文ガイドの星野写真を見て、自分もこんな写真を撮ってみたいなあと思ったのが始めでした。しかし、この時は受験の忙しさと学校に天文クラブがなかったことから、そのままになっていました。それで、本格的に天文を始めたのは、高校に入学して地学部に入ってからです。高校の時の活動の主体は流星で、ペルセ群やリウ群、双子群、みずがめ群、そして屋間群等の眼視観測やFM観測をよくやっていました。望遠鏡は、高校2年生の時にミザールAR100L型を手に入れ、暇さえあれば始終、月や惑星、星雲星団を観望していましたが、今では天文台に31cm反赤があるので、めったに使うこともなく部屋の隅でほこりをかぶっています。

さて、今まで天文をやっていて一番印象に残っているのは、大学1年の夏の合宿の時、大分県の祖母山の登山口にあるキャンプ場で見た素晴らしい星空です。北斗七星の星々が、まるで1等星のようにキラキラ輝いていて、南天の銀河が雲と見まごうばかりに濃ゆかったのを今でもはっきりと思い出します。銀河が西洋でミルク・ウェイと呼ばれているのにもうなずけます。その他、流星の観測をしていて、火球が音を立てて爆発し、あたりが一瞬明るくなって影が出来るのを見た時やついこの間、IRAS・荒木・オルコック彗星が、満月よりも大きく肉眼で見えた時など、本当に天文をやって良かったと思いました。

最後になりましたが、今までは、あまり写真を撮っていないので、星雲星団の観望とともに、こちらの方も一生懸命やっていきたいと思っています。(ちなみにカメラは、PENTAX-MX、50mm F1.4、200mm F4です。)人見知りをする性格で一見暗く見えますが、どうぞよろしくお願いします。

○ 行事予定

7月 4日 理事会 PM7:30～ 県民天文台にて

7月 9日 運営委員会(運営委員になりたい人、ぜひ天文台へ!) 雨の時PM 7:30～

晴の時PM10:30～

7月24日 日食報告会 PM1:30～ 博物館にて。

(皆既日食のおみやげ話が聞けます! ぜひ多数のご参加を。)

☆ 天文台日誌より ☆

今回は、4月1日から4月30日までの天文台日誌からピックアップしてみました。

☆4/ 1 晴れたのはいいが寒い、あまり見ないでお客さんは帰って行った。観望天体……金星、リゲル、M42、M41、スバル。 (永井)

☆4/ 2 ベーキング用の保温装置について成松氏と打ち合わせ。宮本氏のヒヨコ電球を利用して作りたいと思っています。ヒヨコ電球は裸のままでは危いので、ビールの空缶を利用して保護する。電球の制御装置はクーラーに取り付ける。取り付け用の箱は成松氏が作成すること。 (小林M)

☆4/ 3 大分から来られた家族1組(主婦2人、子供1人)。子供1人が天文について良く知っているのには驚いた。あいにく薄雲があり、シリウス、プロキオンあたりがうっすらと見える程度で残念。 (MAT)

☆4/ 8 今日も晴れた金曜日。今日で(少くとも)連続6週晴れたことになる。金曜日には、照る照る坊主がいるのだろうか? (下郡)

☆4/ 9 今日は運営委員会が行われた。難航(?)の後、会則の草案が決定 (木下)

☆4/17 テンペル彗星らしきものを認めたが、NGC4710かもしれなかった。10:00頃になると薄雲が出て来た。 (MAT)

☆4/23 29日の木星食観測の打ち合せ。and、天文台に設置するピンク電話の使用方法について検討。 (木下)

☆4/27 曇は晴天であったが、予定どおり曇った。 (成松)

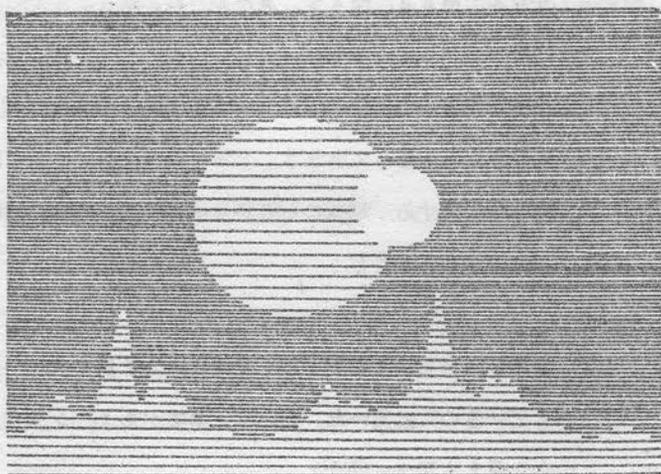
☆4/29 木星食は遂に見られなかった。残念! (木下)

☆4/30 富田先生来台! いろいろな事を話す。 (木下)

☆☆ 編集後記 ☆☆

☆HAR☆

今度で2回目の編集をしましたが、木星食が曇って駄目になったり、I-A-A彗星が発見されたりで、初め考えていた構成が全部パー!になってしまい、前回は劣らず苦労しました。何や、30日遅れの発行のペースが定着してしまったようですが、これから除々に改っていく(予定)、と思いますので、ご勘弁の程を……。



— P R —

☆星との集い in 武夫原☆

来たる7月6日(七夕の前日) 午後7:30より9:30まで、熊大天文研究会主催による星を見る会を行います。望遠鏡は小口径の10cmですが、土星・木星・金星などを観望します。場所は、城南より市内に近い黒髪町の熊大グランド武夫原ですので、ドンドン見に来て下さい。なお、雨天・曇天の時は中止させていただきます。 from 熊大天文研究会